

## はじめに

本報告書は、メディア教育開発センター共同研究『メディアFDとフレキシブル・ラーニング支援の研究開発』（2001－2003年度、主査：佐賀啓男）の下位組織「学習評価支援フォーカスグループ」の平成14年度と15年度の研究成果をまとめたものである。

メディアと情報技術（IT）の著しい発展により、これらが高等教育にも導入され、われわれの学習形態や教育方法は、従来にはなかった柔軟で多様なものとなってきた。

このような急激な変化の下では、メディア革新がわれわれ自身にどのような影響を及ぼすのか、また、われわれはそれにどのように対処していったらよいのか、といった基本的な間に対する答がなおざりにされがちである。というより、十分明らかにされる前に、また新たな技術革命がやってくるというのが実情であろう。

こうした波に押し流されないためには、地道な教育研究が必要である。それには、高等教育のフィールドで起こっていることをしっかりとらえ、その効果を評価していかなければならない。

このような展望に立って、第I部第1章から第9章では、共同研究メンバーの研究と実践の事例を掲載している。また、第10章では、平成15年8月5日に開催した「学習評価支援フォーカスグループ」の研究会議事録を載せている。第II部では、高等教育における評価の諸問題を取り上げている。これは、平成14年7月1日に「メディアFDフォーカスグループ」との共催で行ったシンポジウムの記録をまとめたものである。

なお、編集は、第I部は伊藤と高比良、第II部は波多野と山地が主に担当した。最後に、お忙しい時間を割いて投稿してくださった先生方にこの場を借りて心からお礼を申し上げます。また、編集作業をお手伝いいただいた事務補佐員山本道子さん、嶋中良子さん、および、報告書作成にあたりご支援いただいた、研究協力課をはじめとする職員の方々に感謝の意を表したい。

本報告書について、多くの方々のご関心とご助言を賜るよう心から願っている。

平成15年12月1日

編集担当

伊 藤 秀 子  
波多野 和 彦  
高比良 美詠子  
山 地 弘 起